

コスタリカ内政・外交定期報告(2025年10月)

【ポイント】

内政

- 次期大統領選公示
- 次期大統領選にかかる世論調査(CIEP)

外交

- 駐コスタリカ米国大使、米国上院議会で承認
- 国連事務総長にグリンスパンUNCTAD事務局長が立候補
- 米国の対キューバ禁輸非難決議、1992年以降初の棄権

【本文】

内政

- 次期大統領選公示

10月1日、2026年大統領選公示において、次期大統領選への立候補者一覧が発表。チャベス後継政党である国民権党(PPSO)のほか、市民アジェンダ連合政党(市民行動党(PAC)・国民民主アジェンダ党(ADN))などが新たに結成されている。

- 次期大統領選にかかる世論調査(CIEP)

コスタリカ大学の世論調査機関(CIEP)が10月に実施した次期大統領選に関する世論調査によると、候補者20名で最もリードしているのは国民権党(PPSO)ラウラ・フェルナンドスの支持率は25%である一方、投票先が未定である割合が55%と高い傾向にある。

外交

- 駐コスタリカ米国大使、米国上院議会で承認

10月7日米国上院議会において、メリンダ・ヒルデブランド次期駐コスタリカ米国大使が承認された。現在同ポストは今年1月にシンシア・テレス氏が辞任して以来空席であり、ジェニファー・サベージ臨時代理大使が代表を務めている。

- 国連事務総長にグリンスパンUNCTAD事務局長が立候補

10月8日外務省記者会見において、次期国連事務総長にコスタリカ人のレベッカ・グリンスパンUNCTAD事務局長の立候補が発表された。

- 米国の対キューバ禁輸非難決議、1992年以降初の棄権

10月29日、米国による対キューバ禁輸措置の解除を求める国連総会決議において、コ

スタリカは1992年以降初となる棄権に転じた。決議自体は賛成165票、反対7票、棄権12票で可決。